

## A分科会（概要）

幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントの適切な実施について	協議の視点 適切な指導を行うために、長期的に発達を見通した年、学期、月などにわたる長期の指導計画やこれとの関連を保ちながらより具体的な幼児の生活に即した週、日などの短期の指導計画を作成するにはどのような工夫が必要か。
--	---

### 尾道市立高須幼稚園の提案

#### 1 研究主題

幼児一人一人が主体性を発揮した遊びの中の学び  
～教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの在り方～

#### 2 取組の概要

- 教育課程の見直し
- 日々の記録のとり方の工夫
- 遊びの記録を活用した保育カンファレンスの実施
- カリキュラム・マネジメントの実施
- 地域・保護者と共に社会に開かれた教育課程を目指して、アンケートの実施・評価・改善

#### 質疑応答

○提案の「A児の団子づくり」の保育カンファレンスにおいて、環境構成について先生方が協議している内容があった。今後A児に対して、教師がどんな見通しをもって支援をしていくことになったかという具体例の話があれば教えてほしい。

・事例は4歳児。A児は一人で泥団子を作っては壊すことを繰り返し行っていたが、その様子を担任は見守っていた。保育カンファレンスでは、A児の様子からダイナミックな活動につながるよう、砂場の環境を充実していくということになりかけた。しかし、子供の目線に立ち返った時、A児は砂場遊びではなく、泥団子を続けたいのではないかという話になり、砂場の環境の充実だけではなく、裏庭に泥団子作りの環境を充実させるという話し合いになった。教師は子供が何に興味をもちその遊びにどんな学びがあるかを見極めていく力が必要である。

○絵本の取組について、どのような働きかけを行ったかについて具体的に教えてほしい。

・親子で絵本を借りているので、他の親子の絵本の関わり方の様子を見て刺激を受けている保護者もいるだろう。朝の送迎の時間を利用して読み聞かせをしてくれている保護者もいる。また、尾道市立図書館利用のしおりを配布し、保護者啓発を行っている。

○若い教師の変化はどうか。保育カンファレンスを行う中で教育内容の質が向上したか。

・若い教師は、日々の遊びの流れの記録を作ることが目的になっていたり、何を視点に遊びの記

録を起こすかという視点が不明確だったりしていた。しかし、目的が明確になった遊びの記録を基に、保育カンファレンスを行う中で、若い教師のみならず、ベテランの教師も遊びの中の子供の姿を積極的に話したい、聞きたいという雰囲気が出てきた。保育カンファレンスや日々の記録を整理する中で、自己の指導を振り返ることができ、保育内容も充実してきたと考える。

#### 協議内容

- 保育カンファレンスの重要性は理解しているが、時間を生み出すことが難しいと感じている。高須幼稚園では、基本は毎日保育カンファレンスを行うようにしているということだが、各園所の実態に即して、時間を生み出す工夫をしていく必要がある。そのためには、カリキュラム・マネジメントをするという教師の意識を変えていくための組織的な取組が必要である。
- 教育課程の見直しについて、どのような方法が良いかわからないと多くの意見があった。高須幼稚園では、教育課程の見直しについて日々の記録から自分の指導の在り方を振り返るようにしている。また、振り返りの中で気付いたことは、赤ペンで加筆修正しながら次の指導計画に取り入れている。見直した指導計画について、幼稚園教育要領を基にした教育課程になっているかといった視点で、再度見直しも図っている。

#### 結論

##### 1 時間の確保について

若い教師も増えている現状であれば、なおさらお互いの保育を見合うということは大切である。一つのクラスに教師が集まって、ねらいに即して20分程度保育記録を取ってみるなど工夫はできる。週1回の園内研修で、15分はクラスを超えた話をする時間（1つのエピソードについて話合うなど）とすることもできる。認定こども園では、お昼寝の時間を有効活用し、交代で研修に参加できるようにするなどの体制を整えているところもある。ただし、短時間で協議するには協議のための事前準備が必要である。簡単なフォーマットをもとに資料を作成し、それを基に話し合ったり、付箋に意見を書いたりするなどの工夫があると、若い教師も話しやすくなる。

##### 2 カリキュラム・マネジメントと記録について

日々の記録は、子供の側に立って寄り添って書いているが、そこから子供の育ちを教師自身が考察していく。その記録を基に、園の先生方全員で保育カンファレンスを行い、長期と短期の指導計画とカリキュラムをどうつなげていくかを考えていくことが重要である。そして、環境の再構成までを一体にとらえて、翌週の保育のねらいにつなげていく。それがカリキュラム・マネジメントにつながっていく。カリキュラムの見直しについては、評価・改善を行い子供の実態に応じて見直していくことが大切である。